

令和元年度前期 学群教育改善計画

| | |
|----------|-------|
| 学群(学部)名 | 基盤教育群 |
| 学群(学部)長名 | 川村 保 |

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

| | | |
|---|----|--|
| ① | 課題 | 一部の授業科目の履修者数が、例年と比べて極端に少なくなったり、逆に多くなったりしている。 |
| | 理由 | ・学生が主体的に選択した結果である可能性もあるが、時間割の編成により、授業に出やすい時間帯に配置された科目を履修している可能性が考えられる。 |
| ② | 課題 | 同じ授業科目を履修しても、「分かりやすかった」と「難しかった」の両極に評価が分かれてしまう場合がある。 |
| | 理由 | ・履修する学生の授業への取り組み態度に差があり、事前事後の学習ができていないかどうか、授業中の集中程度の差が、結果的に理解度の差につながっていると思われる。 |
| ③ | 課題 | 【継続】学習環境の整備において、まだ不十分な点がある。 |
| | 理由 | ・体育館の整備状況に問題がある。 ・英語科目やアクティブラーニングなどに適した設備が整備されていない教室がある。 |

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

| | |
|---|--|
| ① | <ul style="list-style-type: none"> 履修者数が多かった一部の科目を2クラス編成にするなどの対応をし、クラスサイズを平準化することの学生にとってのメリットなども説明してきたが、十分な効果が出ていないので、この取り組みは強化しながら継続していく。 また、時間割の位置が変わることで履修者数が変動したりしていることについては、時間割編成の際にできるだけ考慮していくが、科目数や様々な考慮すべき条件があるために時間割編成の自由度は限られている実態もあるので、今後に予定されている大規模なカリキュラム改定を見据えて、準備をしていく。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修や事後学習についての指示に、これまで以上に留意するように、各教員に促す。 F D等を通じて、教員側が、学生たちの意識や学力の状況について適切に理解し、幅広い特性を持った学生層への対応をより適切にできるようにしていく。 コモンズ等での学生たちの自主的な学びを支援していく。 次期カリキュラム改定へ向けての議論の中で、学力別のクラス編成等の可能性についても検討していく。 |
| ③ | <ul style="list-style-type: none"> 現在、策定作業に取り掛かっている第3期中期計画の中で、体育館の施設等の整備や各教室の備品の整備に実現を図る。 引き続き、時間割編成の中で科目の特性に応じて適切な教室への配置を図るように調整していく。 |

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

・事前学修の参考になるように、次回の授業の予定や教科書の該当するページを、配布している資料に明記することによって、事前学修等、授業外の学習時間を確保している。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

・事前学修等、授業外の学習時間については、多くの科目の担当教員が小テストを行ったり、事前課題を課すなど、様々な取り組みを行っているところである。上記の取り組みも含む各教員の取り組みについて、教員会議やF Dを通じて、引き続き情報共有を進める。

令和元年度前期 学群教育改善計画

| | |
|----------|------|
| 学群(学部)名 | 看護学群 |
| 学群(学部)長名 | 原 玲子 |

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

| | | |
|---|----|---|
| ① | 課題 | 「継続」 事前・事後学習の方法や授業中に集中する方法が工夫されているが、学生に対する「事前・事後学習」の意識付けにつながる工夫が必要である。 |
| | 理由 | 授業アンケートから、この科目の週当たりの授業外の学習(課題レポート・予習・復習など)が少ない状況が明らかとなり、学習を促す工夫が求められる。 |
| ② | 課題 | 「継続」 ルーブリックの作成が定着してきた。令和2年度は、改革の完成年度となるので、ルーブリック適用科目の拡大、内容、評価者などの関係を検討する必要がある。 |
| | 理由 | ルーブリックを作成しても、技術試験など複数の教員が行うことから、評価に差があると不満を持つ学生もいることから、複数の教員が行わなければならない状態の場合など、公平な評価に対する検討が必要である。 |
| ③ | 課題 | [継続] PC必携化を踏まえて、電子教科書の検討およびPCの活用が習慣になるような方法や体制の検討が必要である。 |
| | 理由 | 看護は、急激に、ICTが進んでおり、PCの必携を機会に、ICT教育を充実させる必要がある。 |

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

| | |
|---|--|
| ① | ・「継続」 事前・事後学修については、引き続きの課題である。今期も「講義最初の到達目標提示」「小テスト」「レポート」「課題の提示」等の工夫がされていた。各科目において、事前・事後学修をどのように行っているのか、その方法をどのように評価しているのか等の情報を共有し、FD等を通して、効果的な方策を検討する。 |
| | ・「継続」 ルーブリックの作成をすすめながら、課題としてみえてきたことなど、FD等を通して共有し、ルーブリックの精度を上げる。 |
| ③ | ・「継続」 看護学群の将来構想として、地域包括ケアを推進できるナースの育成をめざしている。令和2年度は、保健師助産師看護師学校指定規則の変更により、カリキュラムの検討を行う。看護情報学の強化も求められていることから、内容について検討する。 |

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

・パソコン必携の学年になり、学生はより効率的に課題や資料をまとめていた。特にグループワークにおいて、ワークシートの記載を手書きからパソコン使用にしたことで生じた時間をディスカッションにより費やすことができるようになった。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

・教員会議で紹介し、情報を共有する。
・看護学群のFD等を通して、事前・事後学修時間の確保を促進する方法等の検討やICTを強化したカリキュラム等について検討について検討を進める。

令和元年度前期 学群教育改善計画

| | |
|----------|--------|
| 学群(学部)名 | 事業構想学群 |
| 学群(学部)長名 | 風見 正三 |

| | | | | | |
|--|--|----|--------------------------------|----|---------------------------------------|
| <p>1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。 ※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。</p> | | | | | |
| ① | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">課題</td> <td>事前・事後の学習計画の妥当性について検討する必要がある。</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>事前・事後の学習は導入されてきているが、その評価手法の確立が十分ではない。</td> </tr> </table> | 課題 | 事前・事後の学習計画の妥当性について検討する必要がある。 | 理由 | 事前・事後の学習は導入されてきているが、その評価手法の確立が十分ではない。 |
| 課題 | 事前・事後の学習計画の妥当性について検討する必要がある。 | | | | |
| 理由 | 事前・事後の学習は導入されてきているが、その評価手法の確立が十分ではない。 | | | | |
| ② | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">課題</td> <td>実学教育プログラムの教育効果について考察を進める必要がある。</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>シラバスを踏まえた外部講師の導入効果や貢献度を明確にする必要がある。</td> </tr> </table> | 課題 | 実学教育プログラムの教育効果について考察を進める必要がある。 | 理由 | シラバスを踏まえた外部講師の導入効果や貢献度を明確にする必要がある。 |
| 課題 | 実学教育プログラムの教育効果について考察を進める必要がある。 | | | | |
| 理由 | シラバスを踏まえた外部講師の導入効果や貢献度を明確にする必要がある。 | | | | |
| ③ | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">課題</td> <td>Eラーニングシステムの導入効果の測定が必要である。</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>Moodle や Moca 等の教育効果の把握が十分ではない。</td> </tr> </table> | 課題 | Eラーニングシステムの導入効果の測定が必要である。 | 理由 | Moodle や Moca 等の教育効果の把握が十分ではない。 |
| 課題 | Eラーニングシステムの導入効果の測定が必要である。 | | | | |
| 理由 | Moodle や Moca 等の教育効果の把握が十分ではない。 | | | | |
| <p>1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。</p> | | | | | |
| ① | 各教科の事前・事後の学習方法の実施状況と適性を考察し、教員連絡会議で情報の共有を行う。 | | | | |
| ② | 学類単位で実学教育プログラムの実施状況を把握し、外部講師の貢献度や導入効果を考察する。 | | | | |
| ③ | 学群 SSC-WG が主体となり、Eラーニングの導入状況とその効果を測定し、マイクロ FD や教員連絡会議で情報共有を進める。 | | | | |

| | |
|---|--|
| <p>2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学生の進捗把握とフォロー体制(補講など)を充実させていく。 ・グループ数を減らしてフィードバックを充実させていく。 ・課題や提出物について、moca のコメント機能を有効活用していく。 | |
| <p>2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学生の習熟度や進捗を踏まえたフォロー体制の整備を努めていく。 ・各学類の特性を踏まえながら、講義・演習における双方向・対話型の手法を検討していく。 ・外部講師による実践知の習得状況を踏まえながら、戦略的な講義計画を検討していく。 | |

令和元年度前期 学群教育改善計画

| | |
|----------|-------|
| 学群(学部)名 | 食産業学群 |
| 学群(学部)長名 | 西川正純 |

| | | | | | |
|--|---|--------|--|--------|---|
| 1-①. 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。 | | | | | |
| ※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。 | | | | | |
| ① | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課 題</td> <td style="padding: 5px;">継続：座学講義において、授業時間外の学修時間、特に予習の時間が少ない科目がまだ認められる。なお、実験・実習科目については、毎回レポート課題が出ており、2時間半以上の時間外学習を実施した例が多かった。その一方で、レポートの提出に追われて脱落する学生も見受けられており、新たな課題となりつつある。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理 由</td> <td style="padding: 5px;">予習・復習が必要ないと考えている学生も多いこと、アルバイト等のため時間が取れないことが理由と考えられる。またレポート課題が多すぎて対応できない学生がいることについては、実験・実習科目が2年次に集中していることが原因とも考えられる。</td> </tr> </table> | 課 題 | 継続：座学講義において、授業時間外の学修時間、特に予習の時間が少ない科目がまだ認められる。なお、実験・実習科目については、毎回レポート課題が出ており、2時間半以上の時間外学習を実施した例が多かった。その一方で、レポートの提出に追われて脱落する学生も見受けられており、新たな課題となりつつある。 | 理 由 | 予習・復習が必要ないと考えている学生も多いこと、アルバイト等のため時間が取れないことが理由と考えられる。またレポート課題が多すぎて対応できない学生がいることについては、実験・実習科目が2年次に集中していることが原因とも考えられる。 |
| 課 題 | 継続：座学講義において、授業時間外の学修時間、特に予習の時間が少ない科目がまだ認められる。なお、実験・実習科目については、毎回レポート課題が出ており、2時間半以上の時間外学習を実施した例が多かった。その一方で、レポートの提出に追われて脱落する学生も見受けられており、新たな課題となりつつある。 | | | | |
| 理 由 | 予習・復習が必要ないと考えている学生も多いこと、アルバイト等のため時間が取れないことが理由と考えられる。またレポート課題が多すぎて対応できない学生がいることについては、実験・実習科目が2年次に集中していることが原因とも考えられる。 | | | | |
| ② | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課 題</td> <td style="padding: 5px;">継続：専門基礎科目、専門科目（実験・実習も含む）で履修者数が多い授業では、理解度の低い学生が存在しており、改善すべき重点課題であると考ええる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理 由</td> <td style="padding: 5px;">予習・復習が行えていないことに加えて、履修者数が多い大講義室での講義では集中力が散漫となること、実験・実習では目が行き届かないこと等が原因で理解度がより低くなっている可能性も考えられる。</td> </tr> </table> | 課 題 | 継続：専門基礎科目、専門科目（実験・実習も含む）で履修者数が多い授業では、理解度の低い学生が存在しており、改善すべき重点課題であると考ええる。 | 理 由 | 予習・復習が行えていないことに加えて、履修者数が多い大講義室での講義では集中力が散漫となること、実験・実習では目が行き届かないこと等が原因で理解度がより低くなっている可能性も考えられる。 |
| 課 題 | 継続：専門基礎科目、専門科目（実験・実習も含む）で履修者数が多い授業では、理解度の低い学生が存在しており、改善すべき重点課題であると考ええる。 | | | | |
| 理 由 | 予習・復習が行えていないことに加えて、履修者数が多い大講義室での講義では集中力が散漫となること、実験・実習では目が行き届かないこと等が原因で理解度がより低くなっている可能性も考えられる。 | | | | |
| ③ | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課 題</td> <td style="padding: 5px;">実験・実習科目において、ピペットマン等の実験器具、測定機器等の実験機材が不足し、学生間の学修効果にばらつきが認められる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理 由</td> <td style="padding: 5px;">実験機材を利用するための順番待ちや待ち時間があることに加え、グループの中で作業をやる学生とやらない学生が存在していることが原因と推察される。</td> </tr> </table> | 課 題 | 実験・実習科目において、ピペットマン等の実験器具、測定機器等の実験機材が不足し、学生間の学修効果にばらつきが認められる。 | 理 由 | 実験機材を利用するための順番待ちや待ち時間があることに加え、グループの中で作業をやる学生とやらない学生が存在していることが原因と推察される。 |
| 課 題 | 実験・実習科目において、ピペットマン等の実験器具、測定機器等の実験機材が不足し、学生間の学修効果にばらつきが認められる。 | | | | |
| 理 由 | 実験機材を利用するための順番待ちや待ち時間があることに加え、グループの中で作業をやる学生とやらない学生が存在していることが原因と推察される。 | | | | |
| 1-②. 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。 | | | | | |
| ① | 2月の教員会議・教授会、学類(学科)会議で情報の共有化を図る。対策としては、履修者同士の教え合い、学び合うことで主体的で能動的な学びを実現できるLTD (Learning Through Discussion) やグループワークを取り入れること、事前に学ぶポイントを伝え授業に臨ませること、さらに事後学修として、宿題や小レポート、小テスト、練習問題等の実施することで、授業外学修の習慣付けを実現する。また、実験実習科目が2年次に集中していることについては、基盤教育も含めてカリキュラム編成の見直しを行うこととしたい。 | | | | |
| ② | 2月の教員会議・教授会、学類(学科)会議で情報の共有化を図る。対策としては、昨年前期に引き続き、双方向型授業やアクティブラーニング授業の一環として、グループワーク、LTD、ピアサポートの実施・活用を徹底させる。さらに、学修支援システムの利用を拡大し、コメントカードやレポート、事前学修(簡単な演習)のオンライン化等々、授業での不明点に対する解説なども含めて履修者全員と情報の共有化を図り学修の向上をお願いする。また、履修者の多い科目については、2グループに分けての講義や実験・実習などを将来検討する必要があると考える。 | | | | |
| ③ | 実験・実習科目における学生間の学修効果にばらつきについては、ピペットマン等の実験器具を履修者数整備することで、まずは解決を試みる。測定機器等の実験機材の不足については、新年度予算の教材費中の備品費での整備を検討する。 | | | | |

| | |
|---|--|
| 2-①. 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。 | |
| 授業実施の良い事例としては、「食産業に関する基本的な知見(農業、畜産、植物・動物、食材)が得られたこと」、「課題を通じて実践形式で学ぶことができた点」、「実例を挙げながら丁寧に説明していた点」などがあり、授業改善の良い事例としては、「基礎的部分が不十分な受講学生については個別の対応などについても積極的に取り組む」、「『自分事』として捉えられるよう、授業の目的、授業毎の到達目標を伝える」などであった。 | |
| 2-②. 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。 | |
| 教育改善計画としては、昨年に引き続き、自主的な学習に期待してもなかなか取り組めない学生向けに、事前に学ぶポイントを伝え授業に臨ませる、配布される資料の読み方、使い方について指導し、読んだかどうかの確認等を行う。さらに、双方向型授業、アクティブラーニング授業、授業外学修の定着に向けた講習会を学群・研究科の教務委員会で年度内にスケジュール化して実現する。 | |